

## 問いがつながる複式教育 ～学び合いの場を生み出すみとりと支援～

### 1. 研究テーマ設定の理由

複式学級では、少人数であることから一人一人の活動の場が十分に確保され、発言の機会が多くなる。また、異学年の子どもたちから学ぶことができる。さらに、司会や記録など子どもたち主体で学習を進める技能や態度を身に付けやすい。

しかし、複式学級の学びにおいては、間接指導<sup>※1</sup>時に司会と記録を子どもたちが行い、自分たちで主体的に進めていくところに課題がある。そのため、主体的な学びが成立するには、子どもたちが課題に対して様々な考えを出して話し合い、深め、追及していくことが欠かせない。さらに、学びの基本的な流れを確立させると同時に、子どもたちに授業を進める技能を身に付けさせることも必要である。また、授業を進めていく上で重要な表現力やコミュニケーション力を育成したい。

複式部では、学びの基本的な流れと授業を進める技能を以下のように考えている。

学びの基本的な流れ	授業を進める技能
①課題を確かめる ・疑問を明確にして課題とする ・学習目標を設定する ②見通す ・どのような学習活動が適切か ・授業の終盤ではどうなっていたいのか ③調べる、考える（ひとり学び） ・課題に対する自分の考えをまとめる ・考えを伝え合うための準備をする ④深める（ペア学習やグループ学習） ・考えを表出して伝え合う ・全体で吟味してより良い考えに高める ・課題を深める ⑤まとめる ・学習目標を達成できたか ・どんなことがわかったか	司会者 ・学習活動の時間を適切に設定する ・発言、ミニボードの利用、ノートや具体物の提示など、発表の方法を指示する ・発言を受けて様々に聞き返す ・学習の流れを決める 記録者 ・学習活動や発言を短くまとめて記録する ・囲む、線で結ぶ、文字の色を変える フォロワー <sup>※2</sup> ・司会が滞った場合にアドバイスする ・記録の補助を行う ・相手に伝わりやすい発表方法を選択し、短くまとめて話す ・発言内容について考えながら最後まで聞く ・立場や考えを表情や頷きに表す

#### (1) 学校提案とかがわって

学校提案の「問い続け、学び続ける子どもたち」は、子どもたちが司会・記録を中心として進める複式の学習において、めざす姿そのものである。

しかし、継続した問いや学びをつくることが大きな課題となっている。複式学級における「問い続け、学び続ける」とは、教師の働きかけだけではなく、自分たちで全体の意見を吟味し、問いを深めていくことだと考えている。それは一人で完結するものではなく、集団としての学びで生み出されるものである。そのため「誰かの問いは自分たちの問いである」というような受容的な関係が求められる。そこで、複式部の研究テーマを「問いがつながる複式教育～学び合いの場を生み出すみとりと支援～」とした。

教師は、子どもたちの問いや考えをみとり、それらが効果的につながるような支援を行うことで、新たな学びが生まれると考えている。また、教師だけではなく子どもたち自身が学習に主体的に参加し、リアルタイムで変化していく話し合いから焦点化できる部分を見つけ出し、全体での話し合いの新たな課題とすることが重要になる。

#### (2) 複式学級でめざす子ども像

複式学級で学び合うためには、友だちの考えを大切にし、自分の考えも大切にされるという学級風土を形成し、一人一人が安心して取り組めることが重要である。

間接指導<sup>※1</sup>…教師が一方の学年で指導しているとき、他方の学年の子どもたちに、自分たちだけで学習を進めさせること。

フォロワー<sup>※2</sup>…司会者、記録者以外の授業に参加する子どもたち全員を指す。

①友だちの話を聞くことができる子ども

子どもたちで学び合うためには、「聞く」ということが大きな位置を占める。ただ表面的に聞くのではなく、受容的に聞くことが大切だと考えている。受容的に聞くとは、最後までじっくりと聞く・発言を繰り返せるように聞く・言いたいことを考えながら聞くなどである。友だちの意見を聞き比べ、話し合いの方向性を見出していく。

②友だちの考えに共感し、話し合いを楽しめる子ども

自分の考えを素直に出せることや、肯定的に受け入れてもらえることの安心感が、話し合いを楽しむという学級風土につながる。相手の考えに興味をもち、相手の考えを楽しみにできる子どもを育てたい。また、話し合いの重要性や価値を感じさせるような課題を設定し「この友だちとだから解決することができた」というような経験をさせたい。

③主体的に学び合う子ども

複式学級で主体的に学び合うには、「新たな問いを見つけることができるか」「自分たちの学びが学習目標から外れていないか」ということを常に認知することが求められる。また「自分たちの学びが目標に向かって高まっているか」を認知できる力も育てたい。

## 2. 複式学級における「問い続け、学び続ける子どもたち」

### (1) 複式学級におけるみとりと支援

複式学級の授業は、少人数のため考えをまとめやすい環境にあるが、一人一人の考えに深く触れて違いを見出したり、深めたりしようとしなければ、それ以上の学びにつながりにくい。正解のみを求めたり、事実としてとらえたりするだけではなく、表現されていないものや考えの奥に隠れているものを探れるようになってほしい。そのため教師は、子どもたちの理解・認識・立場・考えの過程・関係性を丁寧にみとり、別の視点で対象に出合わせる・説明を求める・理由や考えの過程を表出させる・子どもの考えをつなぐなどの支援を行う必要がある。

しかし、間接指導時には子どもたちの考えをみとりにくい。そこで、子どもたちの考えを板書記録・ワークシート・ノートなどに残させることによってみとり、支援に活かす必要がある。

### (2) 複式学級における「問い続け、学び続ける子どもたち」の姿

①学びを追及する子ども

- ・物事に働きかけ疑問をもつ
- ・解決への見通しをもち、様々な方法を考える
- ・身につけたことをもとに、考えを深めたり広げたりする

②他者との関わりを大切にしている子ども

- ・友だちの考えを受容的に捉える
- ・友だちの考えを聞き、自分の考えを深めたり広げたりする
- ・友だちとの話し合いの中から、新たな課題を見つける

③学びを実感する子ども

- ・学んだことを活かし、新たな課題に取り組む
- ・友だちとの関わりから生まれた問いを課題とし、自分たちで解決をめざす
- ・自分の考えを再構成する

### (3) 実践例

2年生の生活科で、おもちゃをどのようにして動かすのか発表し合った授業の実践例を挙げる。

子どもたちが発表し合う中で、質問やアドバイスがなかったおもちゃがあった。それは、息を吹きかけて動かすとされていたが、実際は動かすにくいものであり、話し合いの中心になるとみとっていた。そこで、このおもちゃに注目させることで、全員が自分の課題として動かすための工夫を探り始めると考えた。

次に示す授業記録のように、教師が適切に入ることで、話し合いを活性化できたと考えている。

たかし：息を吹くと、ちょっとだけ動くおもちゃです。

(口々に話す)

ゆうな：じゃあ、作ります。(さらに工作を進めるという意味)

教師：作るまでいったの？先生、たかしの話が面白いと思ったけど、持って来たげてよ。(たかしが持って来る)

教師：ちょっと置いてみて。

たかし：(息をふきかける)

しおみ：動かん！

教師：先生やってみるな。

しおみ：動いた！

(子どもたちが、それぞれに息を吹きかける)

教師：先生…でも、息しんどいわあ。なんかいい方法ないかな？

としや：紐！

教師：でも、たかしはこれを風で動かしたいんよな？

ゆうな：うちわで扇ぐっ！

しおみ：息で動かす！

教師：みんな、ほかに何で動かせると思う？

としや：磁石！

ゆうな：こうしたら？(ゴムで動かすようにやって見せる)

りりか：箱にテープまいて、置いて、坂の上に置いてね…。(転がす)

教師：りりかちゃん、坂が好きやな。ゴムとか坂とか磁石とか、他にある？

さとる：ゴム！たかし君、タイヤみたいにして、輪ゴムでつないで、それで離すとびゅうっと飛ぶで！

みのる：ここに付けるん？(この後、扇風機やドライヤーで動かそうなど、多くの意見を出し合う)



### 3. 研究の展望

学び合いの場を生み出すみとりと支援を充実させるため、以下の点を重要視して研究を進める。

#### ①単元構成や課題を工夫する

子どもたちの多様な疑問や考えが引き出せるような単元構成や課題を工夫しなければならない。そのためには、子どもたちが興味や関心をもちやすい対象を準備する必要がある。子どもたちにつけた力を明確にした上で、身近にある対象と深く関われるようにすることで、課題意識を深められると考えている。特に複式学級では、間接指導の時間があるため、単元導入における子どもたちの課題意識に対する確かなみとりと支援が必要になる。

課題意識をみとるには、子どもたちの学習経験をみとることが大切である。単元を構成する上で、既習内容が指針になることが多いからである。しかし、既習内容をなぞるような学習では、新たな問いや学びは生まれにくい。そこで、教師は子どもたちに寄り添いながらも新たな問いや学びに導くことが重要である。そのためにも、教師の確かなみとりと教材研究を深めることで可能となる支援が重要となる。

#### ②主体的に学び合う子どもを育てる

子どもたちが主体的に学び合うためには、全員が課題解決のための見通しをもつことが必要だと考えている。そのため、単元導入時に子どもたちに課題を挙げさせたり、単元を通しての目標を立てさせたりするなど、単元全体の見通しをもてるようにしたい。1時間の授業では、学習計画を作成させるなどして課題解決のための過程に見通しをもたせたい。

また、振り返りを大切にし、自分たちが選択した課題解決の方法は適切だったか自己評価し、改善できるように支援したい。そのため、異学年の子どもたちが互いの授業を参観し合うことで、客観的で子ども目線の評価と授業改善ができると考えている。さらに、授業の振り返りだけではなく、単元を通じた振り返りも充実させたい。そうすることで、単元同士がつながり、その単元に応じた学習計画を立てることができると考えている。

#### ③授業における教師の出番を明確にする

間接指導時は、子どもたちが主体的に学び合い、学びをデザインできる時間である。しかし、子どもたちだけで学びの質を高めることは難しい。そこで、学習内容の価値を教師が十分理解し、子どもたちの実態をみとった上で、適切な発問や指示を出す必要がある。待つべきところは待つ、教えるべきところは教えるというように、1時間の授業における教師の出番を明確にして指導を行うことが

大切だと考えている。

#### ④学び方を学ばせる

子どもたちが主体となる複式授業では、子どもたち自身が司会や記録を行う。司会者には、授業を進める技能だけでなく、発言をまとめたり、考えを引き出したりする技能が必要とされる。記録者には、フォロワーの発言を要約してわかりやすく板書する技能が必要とされる。考えを記録することで、互いの考えに触れやすくなるだけでなく、学びの足跡を残すことにもなる。フォロワーは、自分の考えを表出して伝える技術や話し合いを深めるための技術を身に付ける必要がある。さらに、司会者や記録者を助けながら授業を進めることも大切にさせたい。

子どもたちに学び方を学ばせるため、発達段階を考慮した目標を設定し、次のような表を作成して指導に活かそうと考えている。

	低学年	中学年	高学年
学び方	教師の支援を受けながら学び方を知り、様々な学習形態を経験する。	教師の支援を参考にして課題解決に合った学び方を選択し、自分たちで学習を進める。	自分たちで課題解決に最適な学び方を選択し、学習を効率良く進めて学びを高める。
司会者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会の役割を自覚し、基本的な学習の流れに沿って進行する。</li> <li>・順に意見を聞くなど、偏りなく指名する。</li> <li>・指示を出したり、発言を求めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に合った学習活動を選び、活動時間を設定して進行する。</li> <li>・同じ考えや違う考えを分類しながら指名する。</li> <li>・全体の様子を見て指示を出したり、発言を次につないだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題によって臨機応変に対応し、適切な方法を選んで効率よく進行する。</li> <li>・相手の意見を受けて、関連付けながら指名する。</li> <li>・場の状況に合わせて個別の指示を出したり、発言をまとめたりする。</li> </ul>
記録者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な大きさの文字で単元名や発言内容を板書する。</li> <li>・大事なところを線で囲んで目立たせるなど、工夫して書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や学習活動など、大まかな学習の流れを板書する。</li> <li>・誰が発言したか分かるようにしたり、立場と理由を色で分けたりするなど、工夫して書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動や発言内容を分類して整然とまとめ、学習の流れを明確にして板書する。</li> <li>・反対意見や追加意見を効果的に書き加え、発言内容を線で囲んだり、矢印で関連性を示したりするなど、工夫して書く。</li> </ul>
フォロワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の方を見て、聞きやすい声の大きさで自分の考えを話す。</li> <li>・話し手を見て、発言の最後まで聞く。</li> <li>・相手の意見との違いに触れながら適切な考えを見出そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関連を挙げながら自分の立場を明確にし、理由をつけて話す。</li> <li>・話し手の考えを理解しようと努力し、表情に表したり頷いたりしながら聞く。</li> <li>・相手とともに新たな考えを生み出したり、深めたりしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えに触れたり、視点や論点を明確にしたりして、整理しながら話す。</li> <li>・話し手の意図を捉え、自分の考えと関連付け、考えを深めながら聞く。</li> <li>・相手と考えを伝え合い、より適切で価値の高い考えを生み出そうとするとともに、自分の考えの変容に気付く。</li> </ul>

## 4. 研究の評価

授業の様子を記録したビデオ・音声・写真・ノート・ワークシートなどを用い、できるだけ詳細な授業記録を作成する。学び合いの場を生み出すみとりと支援がどのように成立していたかについて、その授業記録を「Aのようにみとり、Bのような支援を行うと、Cのように子どもたちの学びが高まった。」「Dと発問することで、子どもたちが主体的に学び合う姿が見られた。」のように分析して評価を行う。